

(試験研究課題年次別解説集様式2号：継続課題用)

# 浜名湖地区干潟生産力等改善モデル調査事業

(予算区分 県単独 研究期間 平成18年～20年度)

担当：浜名湖分場

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 近年の浜名湖のアサリ漁獲量減少には、湖南部漁場の消失が深く関わっていると思われませんが、その原因として流れの増大が疑われています。
- ・ そこで、「増大した流れがアサリ資源に影響を与えている」との仮説を立て、浜名湖内各所で流れと稚貝の生息密度や減耗を調査比較します。
- ・ また近年、アサリを捕食するツメタガイ等が増殖していることから、これらの生息状況を把握し、漁業者が既に実施している駆除効果を検討します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成18年度の成果)

- ・ 11月初旬の流れは、湖南部で40～60 cm/秒、湖北部で2～6 cm/秒であり、アサリ稚貝の生存に影響すると考えられるシールズ数は最大で0.6が観測され、湖南部の一部では定常的に砂が移動しているものと推察されました。
- ・ ツメタガイの標識放流の結果、短期間で集中的に再捕され、累積再捕率は放流後2ヶ月間で70%に達し、効率的な駆除が行われていると考えられました。

(平成19年度の成果)

- ・ 6月初旬の流れも前年11月の流れと同様の結果でしたが、シールズ数に関しては全地点で0.2を下回りました。ただし、湖南部漁場の南側では短期間で粒度組成が大きく変化し、砂の移動が激しいことが分かりました。
- ・ 大潮時の流量は、昭和47年に比べ約1.3倍に増加しており、増加の割合はかつて主漁場が形成されていた第3鉄橋付近で最も高くなっていました。
- ・ 1mm未満のアサリ着底稚貝の出現は秋～冬に湖南部漁場の北側で多く、南側では少ない傾向にあり、またその後の減耗は南側で高い傾向にありました。
- ・ ツメタガイの分布は湖内全域で生息が確認されましたが、湖南部での生息数が多い傾向がみられました。
- ・ 浜名湖内でのツメタガイ年間駆除量は約30トン(90万個)であり、夏に駆除量が増加しました。また、多回産卵することが確認されたため、卵塊駆除だけでは繁殖抑制は困難であると考えられました。

## 【期待される成果】

- ・ 潮汐流がアサリ資源の増減に与える影響を明確にできます。
- ・ ツメタガイ等の駆除効果等を明確にすることで、漁業者の意識高揚に繋がり、さらなる資源管理の推進が期待できます。

## 【今後の計画】

- ・ 長期観測を行うことで、波浪の影響も含めた湖底環境の再評価を行います。
- ・ 標識放流等を行うことで、稚貝期の減耗要因を特定します。
- ・ ツメタガイの密度調査を行うことで、年間駆除率を推定します。

(作成 平成20年4月)